



平等な社会の実現に尽くした女性運動家

ひらおか はつえ
平岡 初枝 (1891~1978)

平岡初枝は、明治24年（1891）に上新川郡広田村（現富山市新屋）の神社神職の家に生まれた。明治42年（1909）に県立富山高等女学校（現県立富山いずみ高等学校）を卒業し、上新川郡の針原小学校の教員となった。弁当すら満足に持ってこれない教え子たちとその背後にある農村の窮状に胸を痛み、まず農村に暮らす婦人たちの意識改革が必要であると考えようになった。大正5年（1916）ごろから、赴任した小学校下ごとに「婦女会」を組織し、農村の生活・栄養改善指導に積極的に取り組んだ。昭和2年（1927）には、婦女会指導者としての功績が認められ、知事表彰を受けた。

生活改善とともに、男女教員の格差是正にも取り組んだ。全国小学校女教員大会や全関西婦人連合会に県代表として参加し、「男性と同じ仕事をしているのに、なぜ女性は給料が安いのか」と、女性教員の地位向上を強く訴えた。昭和4年（1929）に東京で開かれた大会において、婦選（婦人選挙権）獲得同盟の市川房枝らに見込まれて同盟への参加を誘われるほど「富山に平岡あり」と注目される存在になっていた。

昭和5年（1930）年3月16日、富山市総曲輪小学校で開かれた富山県連合婦女会の総会にて、600名近い会員の前で「婦人の政治的教育と婦選運動に志す私の声明」と題して婦選運動に尽くす決意を発表した。同時に「日本婦選連盟」の設立を訴え、100名を超える賛同を得た。

教員を辞した初枝は、大阪朝日新聞社富山通信部の記者に採用され、間もなく全関西婦人連合会の専従活動家となるよう命を受け、大阪に拠点を移した。その後、婦選運動はもとより、産児制限運動、廃娼運動、労働争議の応援など、女性や貧しい労働者のために活躍した。昭和7年（1932）には、大阪で「玉造無産者病院」を開き、経営に携わった。貧しい人々のために、当時としては破格の「診察料無料、一日一割十銭、入院一日一円」で医療を提供したため、地元医師会の激しい反対運動にあい、何度も警察に呼び出された。そこで「無産婦人同盟健康保険会」を新たに組織し、加入者から半年五銭の入会金を受け取る形で医師会の批判を乗り切った。昭和14年（1939）脊椎カリエスを病んだが、昭和18年（1943）に空襲を避けて富山に戻るまでの11年間、病院の経営者として貧しい人々のために尽くした。

昭和21年（1946）、「平和建設婦人同盟」を富山市に設立し、いち早く戦地からの兵士の引き揚げ促進運動に取り組んだ。この年、初めて婦人参政権が行使された衆議院議員選挙が行われ、女性の議会進出に大きな希望を抱いた。昭和23年（1948）、公選第1回の富山県教育委員に当選し、唯一の女性教育委員として、公民教育の充実と女性の権利拡大に努力した。その後、2度の参議院議員選挙に立候補したが敗れた。昭和26年（1951）には「婦人有権者同盟」富山支部を結成し、地方議会への女性進出に大きく貢献した。同年、県内に6人の女性議員が誕生したが、いずれも初枝の影響を受けた人々であった。

昭和53年（1978）、老衰により逝去。

<専門員 松田 啓宏>



富山県連合婦女会総会の熱気を伝える新聞
「富山日報」昭和5年3月17日



玉造無産者病院の医師・職員たち
(黒いスーツを着た中央右の女性が初枝)